

宇治市観光振興計画 概要版

宇治茶に染める観光まちづくり
～ みんなで淹れる おもてなしの一杯～



● 計画策定の背景

宇治市では、平成 13 年度に、平成 23 年度までに観光入込客数を 400 万人から 500 万人に増加させることを目標に「宇治市観光基本計画」を策定し、様々な事業を展開する中で、源氏物語千年紀にあたる平成 20 年には、556 万人の観光客を迎えました。

しかし、観光を取り巻く環境は大きく変化しており、人口減少による国内観光市場の縮小とそれに伴う地域間競争の激化、ライフスタイルの変化と余暇活動の多様化、さらに平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災の影響、近年の国際情勢等、観光を取り巻く現状は年々厳しさを増しています。

このような中、近年の観光客のニーズや社会情勢の変化を的確に把握し、恵まれた観光資源に磨きをかけ、多くの人々が訪れる観光地を目指すため、「宇治市観光振興計画」を策定しました。

● 計画の位置付け

本計画は、「宇治市第 5 次総合計画」を上位計画とし、「宇治茶と歴史・文化の香るまちづくり構想」や「宇治市歴史的風致維持向上計画」等をはじめとした関連計画との整合を図っています。

また、観光の振興は行政だけで推進しているものではなく、観光事業者等をはじめ、宇治市観光協会、市民、行政が適切な役割分担のもと取り組んでいくことが重要です。本計画では、互いに協働して取り組んでくための基本方針やアクションプラン等を提示するものです。

● 計画の期間

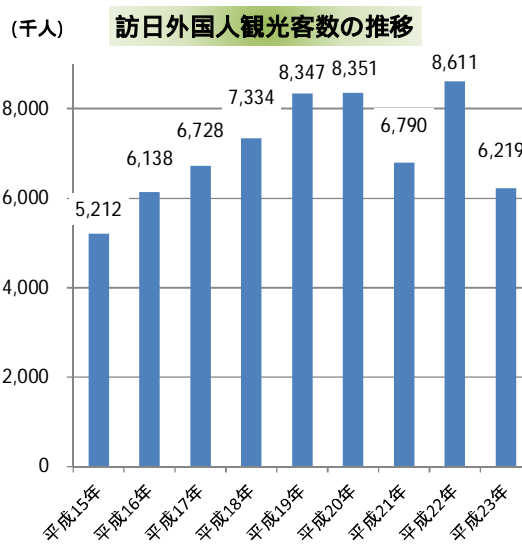
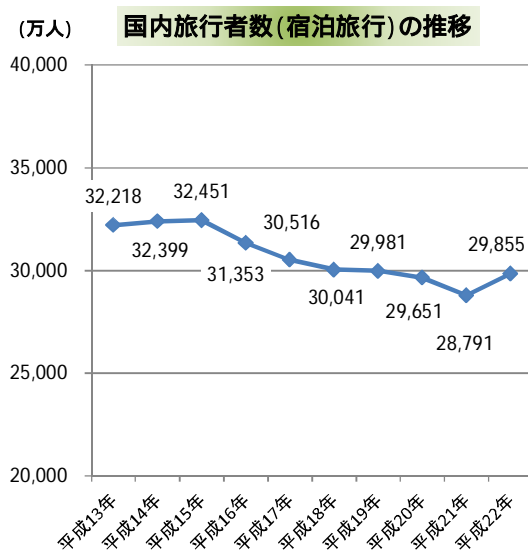
本計画は、平成 25 年度から平成 34 年度までの 10 年間としますが、計画期間を前期 5 年と後期 5 年に分け、アクションプランについては前期 5 年を作成し、後期アクションプランについては、前期計画終了時に、それまでの進捗状況や観光を取り巻く社会情勢の変化を踏まえて策定することとします。



2 観光を取り巻く状況

国内の観光動向

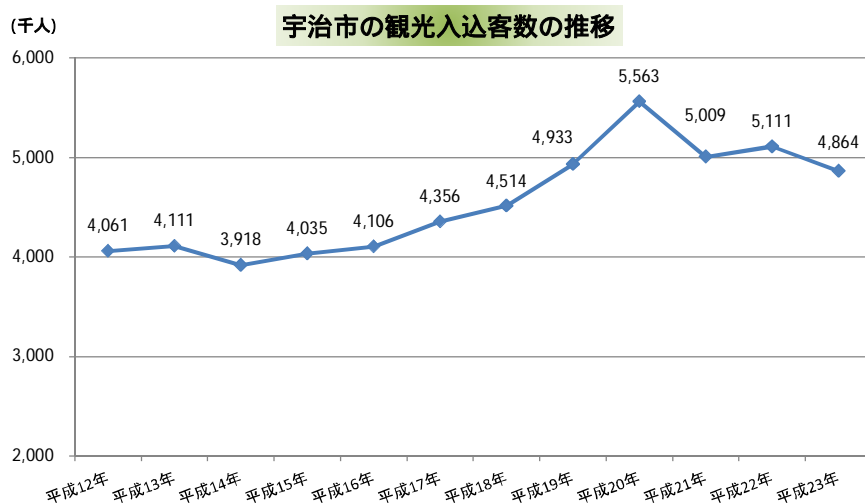
国内旅行者数は平成 22 年に増加したものの減少傾向にあり、外国人観光客数は増加傾向にありましたが、平成 21 年のリーマンショック等の影響と平成 23 年は東日本大震災等の影響を受け減少しています。



資料：一般社団法人日本旅行業協会、(社)日本観光振興協会「数字が語る旅行業 2011」、日本政府観光局(JNTO)

宇治市の観光動向

観光入込客数の推移をみると、平成 14 年までの 400 万人から徐々に増加し、源氏物語千年紀にあたる平成 20 年には、京都府や京都市等との連携による各種イベントの実施や情報発信、また、源氏物語ミュージアムのリニューアル等が功を奏して過去最高の 556 万 3 千人を記録しました。その後も 500 万人台を保ちましたが平成 23 年は東日本大震災等の影響により 500 万人を割り込みました。



資料：京都府観光入込客数調査

宇治観光の特性と課題

特性（強み）

- ・豊富な歴史遺産
- ・全国ブランドの宇治茶
- ・豊かな自然・景観
- ・歴史文化を活かしたまちづくり
- ・京都・大阪・奈良からの近接性

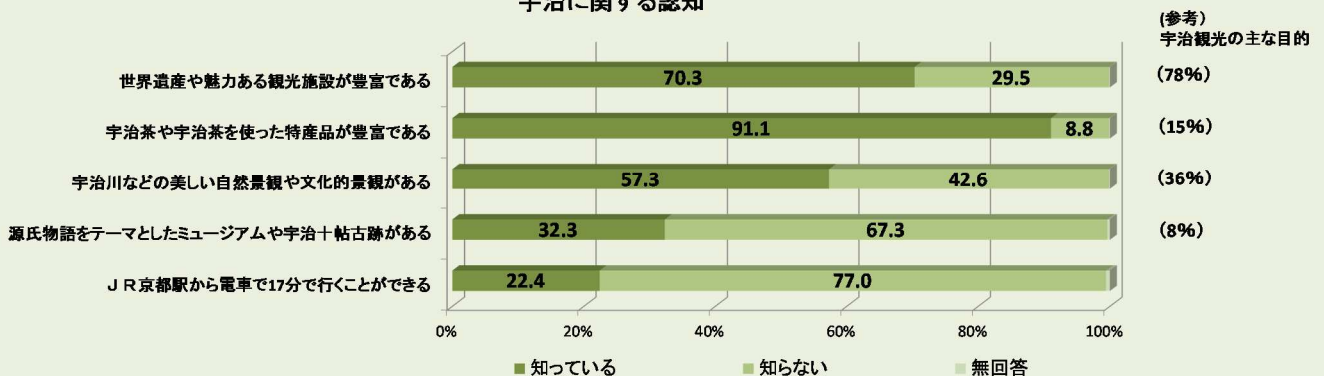
課題（弱み）

- ・情報発信力の不足
- ・交通・駐車場の問題
- ・観光基盤の改善・観光地としての演出不足
- ・インバウンド対策不足
- ・おもてなし意識の希薄
- ・観光客のリピーターが少ない
- ・商品開発力の不足

観光コンテンツとしての宇治茶の認識不足

高級茶として名高い、「宇治茶」という全国ブランドの特産品があり、覆下栽培の独特の茶園風景や茶問屋が軒を連ねるまち並み、茶道や茶室等文化としての側面もあります。観光動向調査によると宇治の認知度調査では「宇治茶」が最も高く、9割を超える認知度となっていますが、宇治観光の主な目的とされている方は15%であり、観光客が来る目的にはつながっていない状況です。最近では宇治茶を使ったスイーツの人気店等の増加や宇治茶の世界遺産登録へ向けた機運が高まっており、「宇治茶」ブランドのさらなる活用が期待できます。

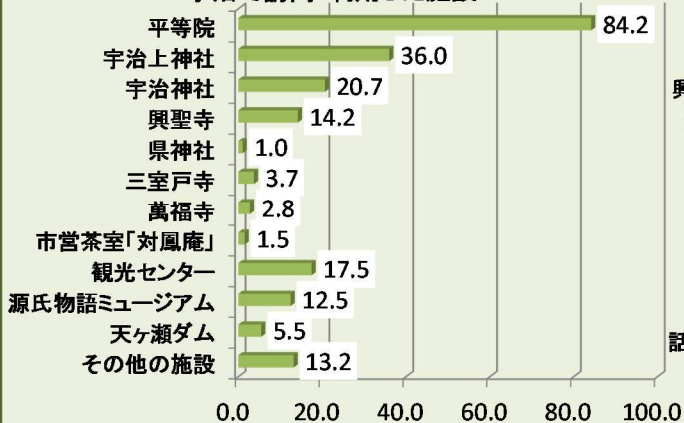
宇治に関する認知



観光地の一極集中

宇治で訪問・利用した施設では「平等院」が8割以上となっており、一極集中の状況が顕著となっています。

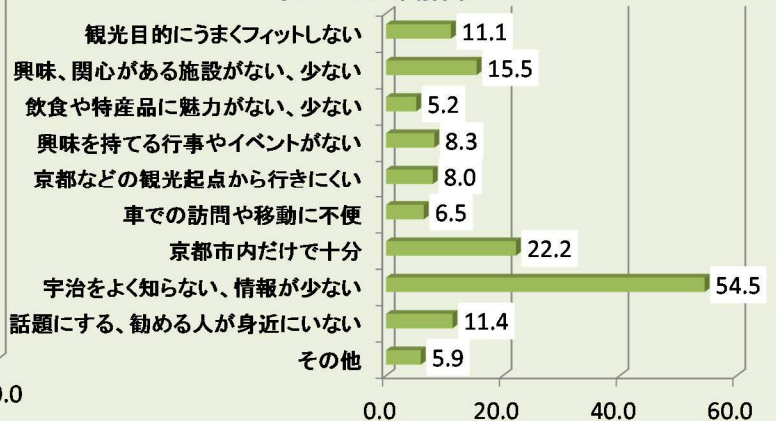
宇治で訪問・利用した施設



情報発信力不足

京都観光客のうち宇治エリアを訪問したことがない方の理由として、情報不足が圧倒的に高いことが明らかとなっています。

宇治エリア未訪問理由



基本理念・目標

観光都市・宇治のブランド力を高める

コンセプト

宇治茶に染める観光まちづくり
～みんなで淹れる おもてなしの一品～

基本方針

宇治らしさを
極める

おもてなし力を
極める

情報発信力を
極める

観光戦略と施策の展開

1.宇治茶ブランド活用戦略

宇治茶に染める観光の推進
宇治茶を活かした新たな食文化の開発・提供
宇治茶を守り、後世に伝える事業の推進

2.豊富な観光資源の保全・活用戦略

世界遺産等の歴史遺産の活用
自然・景観の保全・整備
源氏物語のまちづくりの推進

3.観光コンテンツの開発と魅力向上戦略

新たな観光コンテンツの開発
歩く宇治観光の推進
観光事業者(商店街・個店)の魅力向上の推進

4.おもてなしの心を持った人材育成・環境整備

おもてなし力・市民意識の向上
観光案内の充実
安全・快適に市内を観光できる環境の整備

5.情報発信力向上戦略

情報発信力の強化
観光プロモーションの強化

数値目標

目標とする指標	現状値(平成23年度)	目標値(平成34年度)
観光客の宇治市満足度(飲食・お土産・標識・交通等)	69～95%	全て85%以上
リピーターの割合	58%	70%
京都市へ観光した人が宇治へ来る割合	47%	60%
宇治茶を目的に宇治へ来る割合	15%	30%
観光客が市内で飲食店を利用する割合	76%	85%
観光客が市内でお土産を購入する割合	74%	85%

4

観光戦略と具体的な取り組み

基本方針に基づき、5つの観光戦略を定め、具体的な取り組みを実施していきます。

1. 宇治茶ブランド活用戦略

宇治市には「宇治茶」があり、全国的に高級茶としてのブランドが定着し、宇治と言えば“お茶”という都市イメージに繋がっています。市内には、覆下栽培等独特の茶園風景やお茶屋さんが軒を連ねるたたずまいといった宇治市ならではの景観が息づいており、宇治茶を味わうという面からは、市営茶室・対鳳庵でのお点前や、最近では宇治茶を使ったスイーツの人気店等も増加しています。

さらに宇治市を含めた山城地域全体で、宇治茶の世界遺産の登録へ向けた機運が高まってきています。日本・世界に誇れる“宇治茶”ブランドを観光に活かすため、宇治茶ブランドの活用戦略を推進します。



具体的な取り組み

宇治茶に染める観光の推進

宇治茶を活かした新たな食文化の開発・提供

宇治茶を守り、後世に伝える事業の推進

2. 豊かな観光資源の保全・活用戦略

宇治市には、平等院、宇治上神社の世界遺産をはじめ、日本の三禅宗の一つである黄檗宗の大本山萬福寺、つつじやあじさい等花のお寺として名高い三室戸寺、その他にも宇治神社や興聖寺等多数の社寺仏閣があります。また、源氏物語関連施設や太閤堤の遺跡等、豊富な歴史資源が存在しています。

他にも、宇治市を特徴づける自然・文化遺産や伝統産業が凝縮した宇治川周辺地域は、国の重要文化的景観にも選定された地域であり、魅力的な景観が数多く存在します。

こうした豊富な観光資源を保全し、そのブランド力を活用した観光事業に積極的に取り組んでいきます。



具体的な取り組み

世界遺産等の歴史遺産の活用

自然・景観の保全・整備

源氏物語のまちづくりの推進

3.観光コンテンツの開発と魅力向上戦略

宇治市には、多数の社寺仏閣等の豊富な歴史的資源、魅力的な景観が存在し、特に宇治川周辺は桜や紅葉のシーズンには大変な賑わいを見せています。

しかしながら、宇治市に来られる8割以上の方が平等院に訪れている現状があり、他の資源での集客力が乏しいと考えざるを得ない状況となっています。

そこで、宇治市の魅力をさらに向上させるため、新たな観光コンテンツの開発や、歩く宇治観光の推進、観光事業者個々の強化を進めていきます。



具体的な取り組み

新たな観光コンテンツの開発

歩く宇治観光の推進

観光事業者（商店街・個店）の魅力向上の推進

4.おもてなしの心を持った人材育成・環境整備戦略

観光客の方が、気持ちよく宇治のまちを満喫でき、「訪れてよかった、また来てみたい」と感じていただけるよう、「おもてなし」の心を持って迎え入れることが、リピーターの増加に繋がります。

そこで、観光事業者のおもてなし力の向上はもちろんのこと、市民全体にも観光客をあたたく迎える意識を醸成する必要があります。

また、観光案内機能やアメニティー、バリアフリーの環境整備を進め、外国人をはじめ、どのような方でも、安全・快適に観光できる環境を整えます。



具体的な取り組み

おもてなし力・市民意識の向上

観光案内の充実

安全・快適に市内を観光できる環境の整備

5.情報発信力向上戦略

「平等院は知っているけれど宇治は知らない」といった声をお聞きします。宇治を京都市の一部と捉えられている方も多く、外部への情報発信力が不足しているのは否めません。

そこで、宇治の魅力、宇治でしか味わえない良さを知っていただくために、あらゆる手段や機会を通じて、国内外に効果的に情報を発信していきます。



具体的な取り組み

情報発信力の強化

観光プロモーションの強化

5

宇治市観光振興計画の推進体制

宇治市観光振興計画の目標である“観光都市・宇治のブランド力を高める”ためには、観光振興推進の主役である観光事業者等をはじめ、観光協会、市民、行政が協力し、それぞれの役割を果たしていくことが不可欠です。

また、本計画（PLAN）を「画に描いた餅」に終わらせることなく、目標を実現するための指針とするためには、計画の実行（DO）を観光事業者等をはじめ各種団体に促し、その進捗状況を点検（CHECK）し、計画時点では予測できなかった事象や課題等を踏まえた見直し（ACTION）にも柔軟に対応できる、PDCA による継続的な進行管理体制の構築が必要です。

そのため、行政内部での観光推進体制の整備を行うとともに、観光協会や商工会議所、茶業団体等本計画の推進役となっていただく関係団体や学識経験者等で構成する「（仮）宇治市観光振興計画推進委員会」を設置し、計画を推進するパートナーとしてのご意見をいただき、共に計画の進行管理を行うこととします。

また、上記関係団体のほか観光事業者、商店街、交通事業者等に行政の観光関連担当課を加えた連絡会議を開催し、実務レベルで連携・調整を密に行い、計画の実現を図るとともに、新たな課題等への対応を行っていきます。

さらに、今回のアクションプランは、5年以内に検討・実施できるものを掲げているため、後期アクションプランを策定する際には、目標の達成状況や各事業の効果等の検証を踏まえるとともに、その時代の社会経済状況等も勘案し、新たな課題等にも対応した戦略の見直し及びアクションプランの策定を行うこととします。

観光事業者等の役割

飲食業、お土産業、宿泊業、社寺仏閣、茶業関連、観光に関わりを持つ各種団体等の観光事業者等は、宇治市の観光振興を推進していく原動力は自分たちであるという意識を持ち、観光客や市民に対して、宇治らしい個性的な最高の商品・サービスを提供し、顧客満足度の向上に努めます。また、地域へのかかわりと意義を認識し、異業種間との密接な連携のもと、地域社会・地域経済への貢献に努めます。

観光協会の役割

異業種間や各種団体間の連携、調整を行い、観光事業者等が実施する観光振興に関する取り組みをサポートし、宇治市の観光を支えるプラットフォームとしての機能を果たします。また、宇治市の観光情報発信の中心的役割を担うとともに、先進的な情報の収集と提供を行い、観光事業者等の活性化に努めます。

プラットフォーム：関係者間との連携、調整を図る基盤・土台

行政の役割

観光が宇治市の将来を担う主要産業の一つであると認識し、観光振興に向けた行政としての主体的な取り組みや広域的な取り組みを進めるとともに、観光協会や観光事業者等の主体的な取り組みを支援します。また、歴史遺産、宇治茶、自然・景観、歴史文化等の宇治市の財産を次代に継承していくとともに、市民が観光振興の取り組みに参画しやすい環境整備に努め観光まちづくりを進めます。さらに、本計画の実現に向けリーダーシップをとり、各組織がそれぞれの役割を果たせるよう調整し、計画の実現を推進します。

市民の役割

市民一人ひとりが、宇治茶や歴史、文化、自然に関する体験等を通じて、宇治市に誇りを持つとともに、観光のまちづくりに関心や関わりを持ち、国内外からの観光客をあたたく迎え入れます。また、地域における観光振興の取り組みに積極的に参画し、自らも楽しみながら、魅力ある観光地づくりに努めます。

宇治市観光振興計画（平成25年4月策定）

宇治市 市民環境部 産業政策室 商工観光課

[TEL:0774\(20\)8724](tel:0774(20)8724)（直通）

FAX:0774(21)0408